

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえざり公園

第 33 号 2011 年 9 月 30 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

平成 23 年度を迎えて

会長 間野 洋

平成 23 年 4 月 23 日(土)第 9 回通常総会が開催されました。6 議案全てが承認され、平成 23 年度がスタートしました。皆様ご存知の通り、当会は設立以来 10 年目の節目の年を迎えました。

11 月 26 日(土)に予定されている「花と緑の交流会」では、川崎市 7 区の市民健康の森が一堂に会して特別展を開催する予定です。皆様のご参加をお待ちします。また来年度には 10 周年の記念誌を何とか発行したいと考えています。

今年度の活動目標は昨年度と変わらず、地域とのコミュニティの構築と森の管理の充実です。この中で今年度スタート早々、新しい地域の皆様との交流が始まりましたので紹介します。

まず、大学と地域をむすぶ社会教育、生涯教育の一環として、5 月 9 日、日本女子大学人間社会学部の学生 45 名が多摩美の森を訪れました(写真)。時間の制約があり十分な説明ができなかったため、翌週の 16 日、同学部の田中雅文教授の授業に参加させていただきました。当森に関しての若い方々との質疑応答、意見交換等、充実した時間でした。

6 月 25 日には市民による里山保全を進める

会主催のシンポジウム「里山について学ぶ」が同大学生涯学習センターで開催されました。



ここで、辻誠治先生の「西生田キャンパスの森の現状とこれから」が DVD で上映されました。女子大構内の森は多摩美の森と地続きで身近にありながら、この森の状況を知ることができませんでした。近い将来、田中先生にお願いして、このキャンパスでの植物観察会を企画する予定です。

次に、6 月 19 日「多摩丘陵緑地保全ネットワーク」(中島代表以下 5 名)の皆さんが当会の活動に参加されました。麦刈り、里芋の植え付け等の作業を行い、終了後、藤棚の下での意見交換で話が弾みました。

8 月 6 日には西生田中学校 1 年生 3 名が、我々の活動に関するインタビューに来訪しました。彼らは西生田小の卒業生で 3 年生、5 年生の総合学習で多摩美の森で勉強したことを良く覚えていました。最後に、多摩区在住の高校 3 年生が当会の活動に参加したいとの希望で、9 月 18 日から来ています。

以上の通り若い方々が緑、里山等に関心を持ってくれることは有難いことで、この輪を今後少しずつ広げて行きたいと思います。

最後になりますが、5 月の幹事会で会報の発行について変更しました。今年度より発行回数は年 3 回、発行時期は 5 月、9 月、1 月としましたのでご了承下さい。

今年度の活動も半年が経過しました。今後、当会のメインのイベントが続きます(4 頁参照)。行政、近隣町会のご支援、会員の皆様の協力をいただきながら、無理をせず楽しく活動ができるようご協力をお願い致します。

雑木林が地域と大学をむすび、人の輪を広げる！

日本女子大学 田中雅文

日本女子大学は東京都文京区の目白に本部をもち、目白キャンパスに3学部（家政学部、文学部、理学部）、西生田キャンパスに1学部（人間社会学部）があります。人間社会学部は1990年に創設され、現在約2,000人の学生が在籍しており、これは日本女子大学全体の3分の1を占めています。人間社会学部には現代社会学科、社会福祉学科、教育学科、心理学科、文化学科の5学科があり、人間の生き方や地域・社会のありようを総合的に研究し、また学生に学んでもらうことを趣旨としています。

このような理念に立つ本学部では、地域社会との関係をとりわけ大切にしています。現在、教員による地域貢献のみならず、多くの学生が地域の方々や諸機関・団体にお世話になりながら、社会とは何か、地域とは何か、そして人として生きるとはどのようなことなのかを実践的に学んでいます。今年度から多摩美の森で学生がお世話になっている「生涯教育計画」や「社会教育インターンシップ」の授業も、本学部のこうした理念に基づく学生教育の一環です。皆様には本当にお世話になっていると感謝しています。

翻って私自身は、居住地の東京都武蔵野市で、「境山野緑地」という住宅街の小さな雑木林の保全活動を行っています（団体名：武蔵野の森を育てる会）。ここでは私の立場は逆転し、地域住民として地域の大学の学生ボランティア・サークルと連携しています。小学校、高校の授業や、青少年団体の活動とも協力し、そして近隣の方々の参加を促しながら、さまざまな世代が森づくりを通して交流し、自然と共生するライフスタイルを広げていければと願っています。活動を通して痛感しているのは、皆で協力して森づくりを行っているうちに、人と人の繋がりが豊かになるということです。雑木林がコミュニティ形成を促してくれているといえるでしょう。

ようこそ！森の中のアトリエへ

川崎・多摩美の山トラストの会 須田和順
多摩美の山をもっと身近に、山と一体となって、山を楽しむ。そんな空間を、夏休みの子どもたちに提供できないかと、川崎・多摩美の山トラストの会では、7月31日、麻生多摩美の森を会場に「みどりの作品づくり」の催しを開催しました。

当日は朝から小雨のぱらつく空だったので、会場にキャンプ用のオープンテント2張りを設置。樹間にロープを張ってシートを使った即席の広いオープン教室も作りました。

悪天候にもかかわらず、参加予約の人たちはキャンセルなし！色とりどりの傘が、雨に濡れ輝く木々の間に現われ、スタッフの不安は、笑顔に変わりました。

作品づくりのメニューは次のとおり。

小鳥のプローチづくり（指導：木鳥 焼絵の会 山本稔さんとその仲間）

シュロの葉細工、バッタづくりなど（指導：黒田南海雄さん）

色鉛筆プローチづくり
（指導：当会 岡村克彦）

押し花の額づくり（指導：当会 中尾和代）



藤棚の下では、麻生多摩美の森の会の間野洋さんが竹トンボづくりを始めました。

あちらこちらで、笑い声と「うわあ〜」の声。暑さも心配したけれど、適度に涼しく、輝く多摩美の山がしっかりと美しい。気がつけば雨も上がり、子どもたちが竹トンボを追っかけて走り回る。森を感じる。森に遊ぶ。太陽もよいけれど、雨も素敵。さまざまな素敵を与えてくれる森に、笑顔で感謝できる催しをこれからも開催したいと思う1日でした。

援助いただいている麻生多摩美の森の会の皆様には、「いつもありがとうございます！」。なお、今回、川崎市教育委員会の後援を受け、西生田小学校にもご協力いただきました。

幹事に就任して

赤尾 整史

平成 22 年から多摩美の森の会に参加させていただき、今年度から施設・工作分科会を担当することとなりました。

今、多摩美に住んでおりますが、周辺は緑が豊かで、春には木々が芽を吹き青々とした葉を茂らせ、季節に応じて花が開花し、秋から冬にかけて落葉していく様子を日々の流れの中でふと見て気づくときには、曆で知ると少し違った四季の移ろいを感じることができます。特に早朝、鶯の鳴き声を聞くと何にもまして春を感じる気分となります。もともと樹木や花に興味を強く持っていたとは言えないのですが、自宅の窓から目に入る木々や花を借景として楽しんでいるだけでは申し訳なく、少しでもこれらの維持管理のお手伝いができればと思い、参加した次第であります。

現在“多摩美みどりの会”にも参加しており、月3回の活動となりますが、日ごろ、体を動かす機会が少ない方なので適度に気分転換となり、また体を動かした後に飲む酒がちょっとしたストレス解消ともなっております。

足の運びや上げ下げで年を感じさせられることがあり、無理が利かないこともありますが、まずは怪我や事故に注意し、作業で気持ちのいい汗を流していきたいと考えております。工作はあまり得てではないのでお役に立てるかどうかが心配ですが、皆様と一緒に楽しくやってまいりたいと考えておりますので、宜しく願いいたします。



天体望遠鏡
の体験

天体望遠鏡の体験とオーロラの話

オーロラ天文台 小川 誠治

8月6日(土)に麻生区市民健康の森で行われた、オーロラ天文台・渋谷星の会主催の「夏の星空を楽しむつどい」は曇天となり、残念ながら星がまったく見えませんでした。当日は35名の方が参加されましたが、このイベントのことが紹介された読売・東京・神奈川の各新聞記事をご覧になって、足を運ばれた方も何組かいらっしゃいました。

このためやむを得ず、スタッフによる「望遠鏡解体ショー」を行いました。望遠鏡の仕組みをやさしく解説し、ひとりひとりに操作してもらい、鏡筒をはずして実際に持ってもらうものです(左下の写真)。最初は遠慮していた子供たちも、実際に望遠鏡を持つてみると「重かった」とか「面白い」の感想を話していました。また、「いいんですか?」と大人の方も参加、「望遠鏡なんて初めて持ったわよ」と笑いながら喜ぶ女性もいました。

この後、小川がアラスカで撮影したオーロラの動画や写真を使って「オーロラの話」をしました。これまで科学館やこども文化センターなどの講演に使用した小学生バージョンのパワーポイントをもとに製作し説明しましたが、受けたのは大人ばかりで(笑い)、小さいお子さんは飽きてしまったようです。

20時30分ころ残念ながら解散しました。望遠鏡を片づけ始めたところ、「おぼろ月」が少し見えたので、残っていた森の会の皆様にも見ていただきました。

このイベントの最大の特長は、地元の皆様の全面的な支援をいただいていることです。ご挨拶をいただき麻生多摩美の森の会の間野会長さん、オーロラ天文台がある若葉町会の松澤会長さん、川崎・多摩美の山トラストの会の岡村さん、そして広報にいつもご協力いただいている多摩美の各町内会の皆様、本当に有難うございました。次回は来年2月頃、真冬の星空を見る会を企画しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

秋の催し物のご案内

副会長 中谷 一郎

今年も秋にはたくさんの行事が予定されていますので、皆さんのご参加・ご協力をお願いします。

10月には、秋の植物観察が予定され、県立座間谷戸山公園などが候補に挙がっています。また、10月初めに、西生田小学校5年生の森での総合学習があり、例年行っている樹木による二酸化炭素吸収量測定のほか、新テーマ「暮らしに役立つ植物たち」を設け、マユミ=弓、チャとクロモジ=茶と和菓子用楊枝、ミツマタ=和紙などなど、巡回しながら里山の植物と生活文化のかかわりを学びます。

また、子どもたちが自然の中で遊ぶ麻生プレーパークが実施されます。畑では里芋の収穫など、植樹祭&収穫祭の準備がスタート。

11月初めに「花と緑の交流会」(財・川崎市公園緑地協会主催)のイベントとして多摩区榎戸~麻生区多摩丘陵のウォーキングツアーがありますのでご参加ください。20日は当会最大のイベント、第11回植樹祭&収穫祭です。畑の収穫の恵みを味わっていただき、森の植物観察や音楽演奏会を予定しています。26日は花と緑の交流会で、7区市民健康の森もおおむね10周年のため、特別企画展が開かれ、また劇団飛行船の公演もあります(会場:高津市民館)。

12月初めには、西生田小3年生の森での体験学習(木や草のタネの旅立ち)があります。

関連行事として麻生区より「麻生里地里山保全推進事業」を委託され活動している市民活動団体の2012里山フォーラム in 麻生に出展予定で、西生田小5年生の出演も予定されています(2012年3月予定、麻生市民館)。その他に里地・里山ナチュラルリスト入門講座等も始まっています(主催 里山フォーラム in 麻生)。

今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

8月に大変うれしい事がありました、西生田中学1年の生徒さん3人が森の調査に来られ、学校で発表する予定との事です。皆、西生田小3年、5年のときに森の体験学習をしており、将来を担う子供たちとの絆の大切さをさらに感じました。来年も必ず体験学習への協力をしたく思います。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 10月 1日(土) 菜種の播種、収穫祭の準備、森の清掃
 - 10月4(火)6日(木) 西生田小5年生の総合学習
 - 10月15日(土) 麻生プレーパークの協力
 - 10月16日(日) 里芋の収穫、収穫祭準備
 - 11月 5日(土) 「花と緑の交流会」イベントウォーキングツアー
 - 11月20日(日) 第11回植樹祭&収穫祭
 - 11月26日(土) 「2011花と緑の交流会」
 - 12月 3日(土) 草刈り、畑の手入れ
 - 12月 6日(火) 西生田小3年生総合学習
 - 12月18日(日) 枯木の伐採、樹木の剪定
 - 1月 7日(土) 初出作業、清掃
- この間の補助作業日は第2、第4水曜日です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

< 問合せ・連絡先 >

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com